

音楽と私

鴨井次郎先生

今回は、今年 91 歳をお迎えになり、牛久 SE、滝野川 SE、越谷 SE、アンサンブル
 こうとうの指導者をしておられる鴨井先生に登場をお願いしました。

私の音楽への志向が芽生えたのは、自宅
 近くにあった旧制天理中学校の存在がきつ
 かけでした。戦時下ではありましたが、同
 校には吹奏楽部があり、放課後になると
 20 名ほどの編成で市内を演奏行進してお
 りました。その勇壮な姿を目の当たりに
 し、幼心に強い憧れを抱いたのが全ての始
 まりです。

昭和 23 年 4 月新制天理中学校に入学
 し吹奏楽部の入部を希望しましたが、残念
 ながら当時の中学校には吹奏楽部は無く、
 2 キロほど離れた新制天理高等学校の 16
 名程の部員が活動していた吹奏楽部に入
 部を果たしトランペットを担当すること
 になりました。但し顧問の先生は全く指導に
 は携わることなく、生徒同士が指揮をして
 いました。

昭和 24 年、奈良県で開催された国民体
 育大会(国体)の式典演奏を天理高校吹奏
 楽部が担うこととなり、これを機に天理教
 本部が楽器を新調し、新たに部員を募って
 40 名規模の編成が整えられ、戦前に旧制
 天理中学校時代の指導者だった矢野 清先
 生が指導者に就任され、中学校と高等学
 校の合同吹奏楽編成で名称が「天理スクー
 ルバンド」として活動がはじまったのです。
 矢野先生は徹底して音合わせや美しい響
 き合う基礎トレーニングを指導されまし
 た。

昭和 26 年から始まった全関西吹奏楽コ
 ンクールにおいて、天理スクールバンドは三

連覇の偉業を成し遂げ、昭和 28 年 11 月、
 三連覇の功績により、東京芸術大学奏楽
 堂で開催された関東吹奏楽コンクールにゲ
 ストとして招待されました。

昭和 29 年 4 月、東京芸術大学音楽学
 部器楽科に入学し、1 年時には進駐軍の
 クラブで演奏しているビッグバンドで演奏
 活動、2 年時の後半から財団法人東京交
 響楽団の研修生として入団し、昭和 33 年
 東京芸大卒業時に正団員に就任しました。

昭和 39 年 3 月から日本楽器株式会社
 (現ヤマハ)に転職し、管楽器および吹奏楽
 の普及講師として尽力し、昭和 58 年 3 月
 から学校法人尚美学園にて管打楽器科主
 任教授を歴任。同校ウインドオーケストラ
 を率いて毎年 12 月に米国シカゴで開催さ
 れ、世界各国から 1 万人近くの指導者が
 参加するミッドウエスト・バンド・オーケス
 トラクリニックへの出場を果たすなど、日
 本の吹奏楽発展の基盤を強固なものとし
 ました。

平成 17 年 10 月には中華人民共和国・瀋
 陽音楽学院の客員教授に就任し、平成 20
 年 6 月より同学院の名誉教授の称号を授
 与されました。

令和元年に全シ連の岡村理事長から滝
 野川シニアアンサンブルを立ち上げるので
 指導の依頼があり指導者として就任、現在
 はヤマハ室内管弦楽団の音楽監督を始め、
 4 団体のシニアアンサンブルの指導に携わ
 っています。



中国瀋陽音楽学院 2007 年



ディックゴールドビッグバンド
 アメリカ進駐軍立川基地 1954 年
 後列左端のトランペットが鴨井次郎先生